



支援室だより

大阪府立思斉支援学校
令和7年度 第5号

写真と実物のマッチングができることをめざした指導

1. 対象の実態及び課題

一定の理解言語を有し、音声表出もみられるが、実用的なコミュニケーション手段としては機能していない。コミュニケーションスキルの基礎となる動作模倣や写真と実物のマッチング（理解・表出面）等、基礎的認知能力の向上が課題である。

2. 指導目標

指導者が提示した写真カードを見て、机上に置かれた具体物の中から該当する物を選択することができる。
指導者が提示した具体物を見て、机上に置かれた写真カードの中から該当するものをポインティングできる。

3. 学習内容 指導方法

写真と実物のマッチング課題

1. 理解学習

- ①机上に具体物（日常で使う物）を並べる。
- ②指導者は、児童（生徒）が注目するように促してから、写真カードを提示し、「～はどれ。」？又は、「～ちょうだい。」と言語指示を行う。
 - ・児童（生徒）が正しい物を選択できた場合は褒め、間違った場合は修正する。
 - ・児童（生徒）の実態に応じて、机上に置く具体物の数を調整する。
 - ・課題理解が難しい場合は、選択させたい具体物の少し前児童（生徒）側に置き、正しく選択できるようになってきたら、徐々に元の位置に戻していく。

2. 表出学習

- ①机上に写真カードを並べる。
- ②指導者は、児童（生徒）が指導者の方に注目するように促してから、具体物を提示し、「これなあに？」と言語指示を行い、該当する写真カードをポインティングするよう促す。
 - ・正反応の場合は褒め、誤反応の場合は修正する。

【参考：自立活動の内容の6区分27項目の④】

④環境の把握

- (1) 保有する感覚の活用に関すること。
- (2) 感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること。
- (3) 感覚の補助及び代行手段の活用に関すること。
- (4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関すること。
- (5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること。